

【取扱い厳重注意】

ったけれども、津波が来る危険性は当初から予測されておったということですね。テレビなどはちゃんと見られるような状況になっていますか。

○回答者 なっています。ですから、津波警報が出ているのも承知しておりましたし、到達のとき、そのときのあれは覚えていないですけれども、5mというような津波の規模があったかと思うんですね。それは時々刻々、テレビ、NHK だったと思いますけれども、津波警戒警報ですか、注意報が出ているというのは見えていますから。

○質問者 気象庁の津波警報などは、そうすると、NHK、テレビを通じて把握はされておるわけですね。

○回答者 はい。

○質問者 それは、当直の方は現場で作業されていますけれども、それとの、何というんですかね。

○回答者 当直長のわきにもテレビが据えつけてありまして、そういう情報は彼らはそこで見ることができたと思います。

○質問者 具体的に、5mなら5mで、そういった津波が来るということに対して、その時点、かなり時間的に切迫していると思うんですが、何か対策として講じるとか、講じようとしていたとか、そういったことはございますか。

○回答者 対策というよりも、まず、津波が来ることの周知ですから、テレビを見て、津波警報、注意報が出ているという情報を各中操に流すのと、円卓なり、周りの人間に流すのと、もう一度、沿岸部から、沿岸部というのは、海のわきから、作業している人間は退避、もう一遍確認しろよと、そういう指示はしています。ただ、プラント運転上、津波の対応というのは、結局、来てみて、要するに、海水系がしばらく使えなくなるということの認識はありますが、どれぐらいのものになるのかとか、事前に手を打てるかという、この時間で手を打てるものがほとんどない、全くない。まずは人が逃げると。津波が来ることを想定して、これから操作をしないといけないぞということだけです。特に我々が怖いのは、津波の場合、押し波より引き波で、水がなくなるよということの方が実質上、怖いんですね。

○質問者 「水がなくなったときは怖い」の、その「怖い」の中身がどんなものかなというのをお聞きしたいと思うんですが、例えば、津波の引き波で水位がものすごく下がってしまうから、取水ができなくなるというのは、頭の中にある感覚で言うと、10分水がなくなるんだろうか、それとも1時間ないんだろうかと、時間の長さは、どのぐらい水が取れなくなるというのを頭の中に思い浮かべているんでしょうか。

○回答者 それが難しくて、引き波がどれぐらいかというのはわかりませんが、去年ですか、チリ津波がありましたですね。チリで地震が起きて、津波が来て、福島第一でも結構、うちのももとの潮位がありますけれども、それに対してかぶさってきて上に行ったりとか、引き波のときに重なったりとかいうことで、こういう時間感覚ぐらいで押し波、引き波が来るのかという感覚はありました。

○質問者 それは30分なのか。

○回答者 そうそう、数十分のイメージで、水が来たり、引いたりするのかという感覚はあったんですけども、その時間帯で水が引いたときに、どれぐらい冷却能力に支障を来すのかという感覚は、いまひとつ実際に持てないんですね。

○質問者 いいですか、もうちょっとそこをお聞きしたいんですけども、例えば、10分空になるでも、